

三菱東京FG 連結事業本部制の核心

他のメガバンクと比べ財務面で優位にあると評される三菱東京フィナンシャル・グループ。戦略的自由度の高まりを背景に打ち出した連結事業本部制の導入（四月一日実施）を柱とする「銀・信・証」の融合戦略に注目が集まっている。MTFGはどこを目指しているのか。主要三事業と位置付けるリテール、法人、受託財産各部門の戦略と今後の方向性を探った。

三年以内に時価総額でグローバル金融機関の トップ10入りを目指す

リテール、法人、受託財産で

連結事業本部を導入、合併と同じ効果を実現させる

インタビュー

三菱東京フィナンシャル・グループ
社長 三木 繁光

MTFGは不良債権・保有株式などバランスシートの問題を克服し、財務面での優位性を確立している。この結果、戦略的自由度が高まり、収益機会が増大している。経営資源をリテール、法人、受託財産の主要三事業に結集させるとともに連結事業本部制を導入し、「銀・信・証」をさらに融合させることで、三年以内にグローバルな金融機関の時価総額ランキングでトップ10入りを目指す。



グローバルに通用する
銀行に

MTFGは四大グループのなかで財務面では優位に立つが、収益力が弱点といわれてきた。現状認識はどうか

確かにP/Lの問題、すなわち収益力を強化していくことは引き続き重要な課題だ。ただ、商業銀行の収益は、表面の業務純益でみるのではなく、E-L（期待損失額・信用コスト）控除後、不良債権処理費用控除後

で評価すべきだと思う。MTFGはE-L控除後の収益は〇二年度、〇三年度と四大グループのなかでトップだ。だからといって現在の収益力で満足しているわけではない。他のメガバンクと比べるとボリ

ユーム的にはいくぶん小さいが、世界の主要金融機関のなかでは十分大きな規模を確保している。バランスシートの質をさらに高めていくことで収益力を強化していきたい。

——三年以内に時価総額でグロ